

部活動と両立できる新たな選択肢『中学生サッカースクール』

(一般社団法人 GranSeed)

潜在需要をすくい上げる「4つのサポート」

①「もっと練習したい」部活生



部活動だけでは物足りない。
プラスアルファの練習場所として
参加。

②「基礎から学びたい」遅咲き生



中学校からサッカーを始めた。
戦術の前に、まずはしっかりと
した基礎技術を磨きたい。

③「専門指導が欲しい」GK



チームにGKコーチがない。
専門的なポジションだからこそ、
特化したスキルを学びたい。

④「自分のペースで」多忙生



テスト期間や他競技との兼ね合い
がある。月謝制ではなく「回数制
(都度払い)」で無理なく通いたい。

部活動かクラブチームかの2択だけではなく、部活動に通いながらプラスアルファで通うサッカースクールを開催しています。多種多様なニーズに応え、誰でも参加可能な環境を提供し、中学生がサッカーをプレーする機会を提供しています。

地域全体で支える「協働のエコシステム」



FC GranSeed が中学生のプレー機会を増やす中学生スクールと言う環境を提供し、趣旨に賛同してくださった地元の企業さんが協賛して下さり、支援して下さっています。そして、就実高校サッカー部と連携し、現役高校生が教える中学生サッカースクールの開催もしています。

練習メニューは全て高校生が考案し、当日の運営や進行も高校生が行います。岡山県トップレベルの現役高校生がお手本を見せられたり、一緒にプレーしたりすることで、スピード感や技術レベルの高さを肌で学ぶことができます。

中学生だけでなく高校生も成長することができます。教える側に立つことで、日々色々な人に支えられていることに感謝の気持ちを持てるようになります。教えてもらった中学生は高校生を応援するようになり、相乗効果を生んでいます。

就実高校サッカー部との連携：現役プレイヤーから学ぶ価値



年間6～8回開催。岡山県トップレベルの強豪・就実高校の現役生が、練習メニューの考案から運営・指導までを主体的に担当。

1. 肌で感じる「スピードと技術」

引退した大人ではなく、現役プレイヤーだからこそ見せられるキレのあるデモンストレーション。
質の高いお手本を間近で体感する。



2. 近い年代だから伝わる「リアルな声」

「中学時代にこれをやっておくべきだった」
「基礎をやっておいて良かった」という、
先輩としての生きた教訓を直接落とし込む。



互いに高め合う「相互成長のループ」



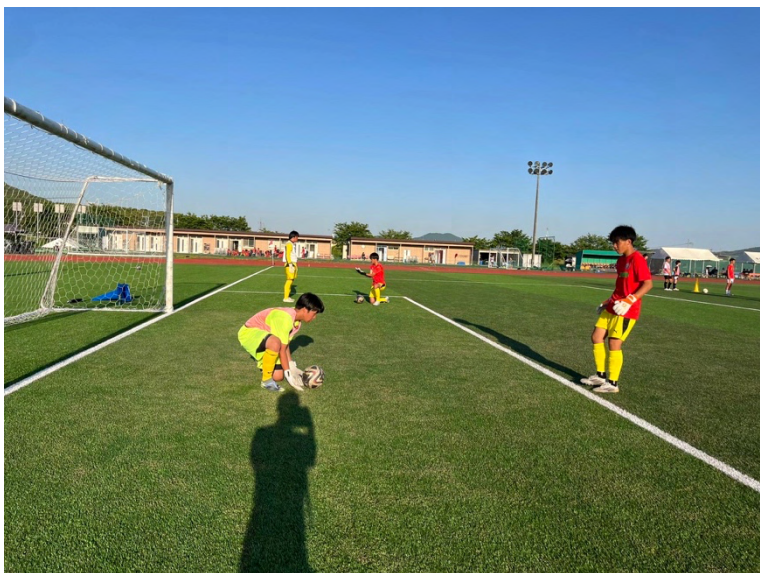
(基礎練習に取り組んでいる様子)



(就実高校生がコーチングしている様子)



(キーパーの専門的なトレーニング)



(様々な中学校の選手が切磋琢磨しています)



(中学生と高校生の交流①)



(中学生と高校生の交流②)

